

甚兵衛渡船場(じんべえとせんじょう)

～大阪市で利用者が一番多い渡船～

概要

尻無川の堤は昔、紅葉の名所でした。「摂津名所
図会大成」に「この河の両堤に黄櫨の木を数千株う
え…紅葉の時節にいたりては川の両岸一円の紅
にして川の面に映じて風景斜ならず河下に甚兵衛
の小屋とて茶店あり年久しき茅屋にして世に名高
し」とあります。この甚兵衛渡しの小屋は「蛤小屋」と呼ばれて、名物のしじみ、はま
ぐりを賞味する人が絶えなかったそうです。大正区側の「泉尾」の町名は、元禄 15 年(1702
年)に開発された「泉尾新田」によりますが、その名称は開発者の出身地(和泉国踞尾村)
に由来しています。(現堺市津久野町)

大正区泉尾 7 丁目と港区福崎 1 丁目を結び(岸壁間 94m)、朝のラッシュ時は学生の利用
も多く、2 隻の船が運航しています。



『大正区ホームページ』から転載

